

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 「誠実明朗」「自主創造」「友情協力」の校訓のもと、明るく健康で、自らを高め、他人を尊重する人間性豊かな人格の形成をめざす。生徒と教職員の信頼関係をもとにした専門教育を通じて、勤労と責任を重んじ、幅広い技術を備えた社会人を育成する。
- 基礎学力と専門的な技能・技術を修得し、社会の中で主体的に生きる力を育てる。
 - 協調性、規範意識を身につけ、周囲から求められる社会人を育てる。
 - 地域社会の中での存在意識を高め、生徒が誇りをもてる学校づくりを進める。

2 中期的目標

- 社会の中で主体的に生きる力を育てる
 - (1) 確かな学力の定着と学びの深化
 - ア 1人1台端末を活用した、個別最適な学びのある授業へと授業改善を推進し、基礎的・基本的内容の確実な定着を図る。
 - イ 主体的・対話的な深い学びのある授業へと、創意・工夫や教材（ICT利活用も含め）等の改善を推進し、学習指導要領に基づく三つの資質・能力を育成するとともに、確かな学力を身につけさせる。

※生徒向け学校教育自己診断における「授業に関する満足度」の令和8年度肯定率90%以上をめざす。(R03年度85.3%、R04年度84.8%、R05年度81.0%)
 - (2) 資格取得に対する意欲を高め、主体的に自己の将来を切り拓く能力を育成
 - ア 各種の資格取得を勧め、学習意欲の喚起と有用な技能修得を図る。

※令和8年度も卒業生の資格取得率100%（一人一つ以上）を維持する。(R03年度100%、R04年度100%、R05年度100%)
 - (3) 在学中の就労を促進するとともに、生徒の希望する進路実現の支援体制の充実
 - ア 未就労生徒に対して、個別指導と個別支援による就労促進を行う。
 - イ キャリア教育、職業教育を充実させ、社会で自立できる力を育成する。
 - ウ 自己の個性や適性を理解し、主体的に進路を選択する能力や態度を育成する。

※学校斡旋就職を支援し、令和8年度も就職希望者の正規雇用就職率90%以上、就職内定率100%をめざす。
(就職希望者の正規雇用就職率 R03年度100%、R04年度100%、R05年度100% / 就職内定率 R03年度89%、R04年度100%、R05年度100%)
- 周囲から尊敬される社会人を育てる
 - (1) 授業規律の確立
 - ア 組織的な指導体制により、良好な学習環境と授業規律の確立を図る。

※生徒向け学校教育自己診断における「良好な学習環境」の令和8年度肯定率80%以上を維持する。(R03年度67.6%、R04年度84.3%、R05年度85.9%)
 - (2) 協調性や社会性の育成
 - ア 魅力ある学校行事、部活動を振興し、学校生活の魅力を高め、集団活動への参加促進を図る。
 - イ SNS等インターネット上や学校生活及び感染症等起因する偏見や差別を許さない人権を尊重する教育を推進する。

※令和8年度、1年次生の進級率90.0%以上をめざす。(R03年度87.5%、R04年度71%、R05年度53%)
- 誇りをもてる学校づくり
 - (1) 地域連携を進め、学校への高い評価を獲得
 - ア 地域活動・公開講座の実施など、地域から見える特色ある学校の取組みを推進する。

※生徒向け学校教育自己診断における「授業や部活動などで保護者や地域の人々とかかわる機会がある」の令和8年度肯定率70%をめざす。
R03年度—(参加機会なし) 、R04年度—77.3% 、R05年度67.8%)
 - (2) 広報活動により、学校の取組みを広く伝える
 - ア 学校ホームページの充実、地域への広報を積極的に展開する。

※令和8年度、中高連絡会・学校見学会・行事等の参加者について、年間延べ50名以上を維持する。(R03年度—(参加機会なし)、R04年度—51名、R05年度—54名)
 - (3) 人材育成により、優れた教育の提供
 - ア 生徒のニーズに合致した、特色ある教育課程と優れた指導体制づくりの構築。

※保護者向け学校教育自己診断における「本校の特色ある取組み」の令和8年度肯定率90%以上を維持する。(R03年度100%、R04年度77.8%、R05年度100%)
- 働き方改革への取組み
 - (1) 分掌・委員会等の会議の目的を明確化し効率を図る
 - ア 会議資料のデータ化、ICT活用による効率的な運営を図る。
 - (2) 定時退庁の促進、学校閉校日の活用ならびに有効な休暇取得の促進
 - ア 教職員の業務分担の平準化を図り、健康増進・ストレス軽減により、働きやすい職場環境を実現する。
 - イ 各種ハラスメント防止に対する意識の啓発を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和7年1月実施分]			学校運営協議会からの意見
1 学習指導	*肯定率(%) R04→ R05→ R06 【増減】		第1回 (令和6年6月7日実施) (1) Q. 教科書は全然違うものなのか？ A. 進学校とそうでない学校では、より詳しく記載があるなど、内容に違いがある。 (2) Q. バイク通学は、認めていないのか？ A. 原則禁止です。ただ、体調不良や家庭の都合等、登下校について、配慮が必要と考えられる場合は、生活指導部等でよく検討をし、最後に准校長に決裁で許可している。 (3) Q. 企業型推薦入試とは？ A. 企業が関係する専門学校に進学する生徒に対して実施している制度で、卒業後、就職することを前提に、借りの奨学金の一部を企業が負担するという形で、人材確保に努めるという制度。採用される為に、生徒は試験を受け、合格する必要がある。
・(生徒) 学校は1人1台端末を効果的に活用している	84.4→71.9→81.5 【+】		
・(生徒) 授業はわかりやすく楽しい	90.6→87.5→74.1 【-】		
・(生徒) 授業で自分の考えをまとめ発表する機会がある	68.8→53.1→55.6 【+】		
・(教員) 思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている	75.0→80.0→80.0 【=】		
・(教員) グループ学習を行うなど、学習形態の工夫・改善を行っている	53.3→79.0→68.4 【-】		
・(生徒) 教え方を工夫している先生が多い	86.7→84.4→81.5 【-】		
・(生徒) 授業などでコンピュータやプロジェクターを活用している	90.6→78.1→88.9 【+】		
2 進路指導			第2回 (令和6年11月29日実施) (1) Q. 今年度の退学者数が1名と少ない理由について質問 A. 例年より学校生活に落ち着いて取り組む生徒が多く、進路が決まってから退学する生徒が1名いたことを説明。 (2) Q. 入学当初から欠席している生徒や、原級留置生で欠席している生徒への対応はについて質問。 A. 入学当初から欠席している生徒については、保護者と連携し、今後の対応を協議中であること、原級留置生で欠席している生徒については、連携や状況把握がしにくくなっているが、粘り強く対応していくことを説明。 (3) Q. 多様な生徒のニーズに対応するため、教職員の増員や、きめ細かい指導体制の構築が必要という意見 R. 教職員の増員は中々難しいが、教職員が一致団結した、生徒一人ひとりに寄り添った指導体制の構築に努めていくことを表明。 (4) Q. 三島小学校への出前授業の内容について質問。 A. ステッカー作り、木製ベンチ製作、自転車パンク修理の3つの内容で実施していることを説明。
・(生徒) 将来の進路や生き方について考える機会がある	87.5→84.4→96.2 【+】		
・(生徒) 学校で進路についての情報を提供している	81.3→84.4→100 【+】		
3 生徒指導			
・(生徒) 学校では、生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている	78.2→84.4→84.6 【+】		
・(生徒) 学校生活についての先生の指導は納得できる	71.9→75.0→92.3 【+】		
4 特別活動指導			
・(生徒) 球技大会は、楽しく行えるよう工夫されている	74.2→75.0→73.1 【-】		
・(生徒) 文化祭は、楽しく行えるよう工夫されている	79.5→81.3→76.9 【-】		
・(生徒) 校外学習・修学旅行は、楽しく行えるよう工夫されている	88.3→87.6→88.5 【+】		
・(生徒) 部活動に積極的に取り組んでいる	59.4→68.8→61.5 【-】		
5 教育相談・支援教育			
・(生徒) 先生は、日常生活や家庭生活について私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる	87.5→75.0→92.3 【+】		
6 学校安全教育			
・(生徒) 学校で事件・地震や火災などが起こった場合、どう行動したらよいか知らされている	81.3→75.0→80.8 【+】		
7 専門教育			
・(生徒) この学校は他の学校にない特色がある	90.3→71.9→88.9 【+】		
8 人権教育			
・(生徒) 人権について学ぶ機会がある	78.1→75.0→76.9 【+】		
			第3回 (令和7年2月6日実施) (1) 学校教育自己診断の結果を、会議中だけ拝見して意見を言い尽くすことは難しいので、資料を3日前ぐらいに郵送等していただきたい。 (2) 生徒指導「先生の指導は納得できる」、教育相談・支援教育「困っていることがあれば真剣に対応してくれる」が肯定率90%超なのは、先生方の丁寧な指導により、生徒との信頼関係が築けている願れだと思います。 (3) 「授業がわかりやすく楽しい」の肯定率が下がっているのは、最近、発達障がい等の疑いのある生徒が多くなったと聞いていますが、その特性に合わせた教育が難しいということだと思います。専門的なスクールカウンセラー等と連携して、一人ひとり対応していくしかないと思います。 (3) 生活体験発表会の全国大会で入賞したり、運動部も活発になっていますが、生徒の意識として、今年は「部活動に積極的に取り組んでいる」が少ないのは、生徒意識の少しの誤差だし、加入率による。R3まで35%と低かった指標なので、良いと思います。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R5年度値]	自己評価
1 社会の中で主体的に生きる力を育てる	(1) 確かな学力の定着と学びの深化 ア 1人1台端末を活用した、個別最適な学びによる基礎的・基本的内容の確実な定着	(1)授業改善のため公開授業を実施。 ア・授業において1人1台端末を活用の確認テスト等を実施し、生徒の学力把握および、個別最適な学習を推進し、基礎学力の定着を図る。	(1) ア・1人1台端末を利用した個別最適な学びのある公開研究授業を、校内で10回以上実施し、基礎学力を定着させる。 (生徒向け学校教育自己診断)「学校は1人1台端末を効果的に活用している。」肯定率80%以上をめざす。[71.9] (授業アンケート)「先生は、授業中に生徒の学習状況をよく把握しようとしている。」肯定率85%以上を維持 [87.3%]	(1) ア・1人1台端末やデジタル学習教材等を利用した個別最適な学びのある公開研究授業を、校内で10回実施。 (生徒向け学校教育自己診断)「学校は1人1台端末を効果的に活用している。」肯定率81.5%【◎】 (授業アンケート)「先生は、授業中に生徒の学習状況をよく把握しようとしている。」肯定率83.8%(第1回80%、第2回87.5%)【△】→生徒一人ひとりの把握からの適切な働きかけを期したい。
	イ 主体的・対話的な深い学びのある授業を推進し、学習指導要領に基づく三つの資質・能力の育成	・生徒の学習意欲を喚起するよう、わかる授業・できる授業をめざし、振り返り学習による学力の定着を図る。 イ・主体的・対話的な授業となるよう授業改善を行う。教材の共有化を図り、授業準備等の業務効率化を図る。	・(生徒向け学校教育自己診断)「授業が楽しくわかりやすい。」肯定率85%以上維持。[87.5%] (授業アンケート)「あなたは、授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている。」肯定率85%以上を維持 [85.1%] イ・1人1台端末を利用した主体的・対話的な深い学びのある公開研究授業を、校内で10回以上、校外5回以上実施する。 (生徒向け学校教育自己診断)「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。」肯定率60%以上をめざす。[53.1%] (教員向け学校教育自己診断)「思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている」肯定率80%以上を維持。[80%] (教員向け学校教育自己診断)「グループ学習を行うなど、学習形態の工夫・改善を行っている。」肯定率80%以上をめざす[79%]	・(生徒向け学校教育自己診断)「授業が楽しくわかりやすい。」肯定率74.1%【△】→生徒一人一人への対応力向上を期したい。 (授業アンケート)「あなたは、授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている。」肯定率81.2%(第1回77%、第2回85.5%)【△】→生徒一人ひとりへの授業力向上を期したい。 イ・1人1台端末を利用した主体的・対話的な深い学びのある公開授業を、校内7回、校外1回を実施。 (生徒向け学校教育自己診断)「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。」肯定率55.6%【△】 (教員向け学校教育自己診断)「思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている」肯定率80%【○】 (教員向け学校教育自己診断)「グループ学習を行うなど、学習形態の工夫・改善を行っている。」肯定率68.4%【△】 →生徒の状況に合わせて機会は減少しているが、発表する機会やグループ学習のある授業をしたい。
	(2) 資格取得に対する意欲を高め、自己の将来を切り拓く能力の育成 ア 各種の資格取得を勧め、学習意欲の喚起と有用な	(2) ア・溶接技術、CAD、製図、計算技術等、授業内容と関連する資格取得への講習	(2) ア・各種資格取得を奨励し、資格取得生徒の増加を図る。[18]	(2) ア・各種資格取得を奨励し、資格取得生徒の増加を図る。【(未定)】ガス溶接5名、アーク溶接1名、計算技術検定4級1名、基礎製

府立茨木工科高等学校 定時制の課程

[illegible]

府立茨木工科高等学校 定時制の課程

	(3)優れた教育環境の提供 ア 生徒のニーズに合致した特色ある教育課程と指導体制づくり	・中学校訪問や学校説明会や体験入学等により教育内容の周知を図る。 (3) ア ・工業系科目の充実を図り、生徒が意欲的に取組める教材を適切に選択するとともに、ニーズに合致するように保護者への授業参観の機会を増やす。 ・全教員が相互見学できるように公開授業を計画し、研究授業参加、研修派遣等も推進し、授業力向上と授業改善を図り、優れた学習環境をめざす。	定率 50％以上をめざす。[22％] ・「中高連絡会、中学校訪問等での連携中学校数」 35 校以上を維持 [35 校] 「中学校への学校説明会等」の参加者数」20 名以上を維持。[23 名] (3) ア ・(保護者向け学校教育自己診断)「この学校には、他の学校にない特色ある教育活動に取り組んでいる。」肯定率 100％を維持。[100％] ・(生徒向け学校教育自己診断)「この学校には、他の学校にない特色がある。」 肯定率 75％以上をめざす。[71.9％] ・(教員向け学校教育自己診断)「学校内で他の教員の授業を見学する機会がある。」 肯定率 80％以上を維持。[85％] (教員向け学校教育自己診断)「教員の間で、授業方法等について検討する機会を積極的に持っている。」 肯定率 80％以上を維持。[84.2％] イ ・(生徒向け学校教育自己診断)「学校で、事件・地震や火災などがおこった場合、どう行動したらよいか知らされている。」 肯定率80％以上をめざす。[75％] ・産業医による校内巡回点検(年2回)および機械工場、自動車工場の定期点検の実施により安全な学習環境を保持。[すべて実施] ・(生徒向け学校教育自己診断)「成績などの内容についてプライバシーが守られている。」 肯定率 100％をめざす。[84.4％] (保護者向け学校教育自己診断)「学校では、子どもに関する個人情報を守られている。」 肯定率 100％を維持。[100％]	い。 ・「中高連絡会、中学校訪問等での連携中学校数・・・36 校【◎】 (中高連絡会6校、中学校訪問 30 校) 「中学校への学校説明会等」の参加者数 29 名【◎】 (学校説明会(実習体験) 16 名、授業見学会・個別相談会 11 名) (3) ア ・(保護者向け学校教育自己診断)「この学校には、他の学校にない特色ある教育活動に取り組んでいる。」 肯定率92.3％【△】 →特色ある取組みを周知し 100％をめざしたい。 ・(生徒向け学校教育自己診断)「この学校には、他の学校にない特色がある。」における肯定率 88.9％【◎】 ・(教員向け学校教育自己診断)「学校内で他の教員の授業を見学する機会がある」 肯定率 73.7％【△】 (教員向け学校教育自己診断)「教員の間で、授業方法等について検討する機会を積極的に持っている。」 肯定率 63.2％【△】 →授業中見守り指導など、見学数減少の要因となるものがあつた。 イ ・生徒への交通安全教室、避難訓練、防災講演会、「防災だより」発行。教職員への食物アレルギー研修実施。 (生徒向け学校教育自己診断)「学校で、事件・地震や火災などがおこった場合、どう行動したらよいか知らされている。」 肯定率 80.8％【○】 ・産業医による校内巡回点検(年2回)および機械工場、自動車工場の定期点検の実施により安全な学習環境を保持。全て実施【○】 ・個人情報管理の教職員研修実施。各考查前にも注意喚起。 (生徒向け学校教育自己診断)「成績などの内容についてプライバシーが守られている。」 肯定率 92.4％ 【△】 (保護者向け学校教育自己診断)「学校では、子どもに関する個人情報を守られている。」 肯定率 92.3％【△】 →プライバシー保護についての不信感が表れた結果、教職員全体で、生徒・保護者への信頼関係の構築を第一としたい。
4 働き方改革への取り組み	(1)会議目的を明確化し効率化を図る ア 会議資料のデータ化、ICT 利用による効率的な運営 (2)定時退庁の促進及び有効な休暇取得の促進 ア 働きやすい職場環境づくり イ 各種ハラスメント防止に対する意識の啓発	(1) ア・各会議室を ICT 利用により効率的な会議運営できる場として整備する。 ・各種会議をICT利用により、資料や説明を効率的にし、教職員間の意思疎通や意見交換に有効な時間を確保する。 (2) ア・校務の業務効率化を図り、ストレス軽減・健康増進に向け、働きやすい職場環境を実現する。 イ・各種ハラスメントについて、日常的に注意喚起し、責任ある行動を求めるとともに、職員研修を行う。	(1) ア・(教員向け学校教育自己診断)「職員会議をはじめ各種会議が、教職員間の意思疎通や意見交換の場として有効に機能している。」 肯定率 80％以上をめざす。[75％] (2) ア・ストレスチェック集団分析結果において、全国平均を 100 として、 A 仕事の量的負担・コントロール度 85 以下を維持 [85] B 上司×同僚のサポート 100 以下をめざす [102] C 総合健康リスク 85 以下をめざす [86] イ・(教員向け学校教育自己診断)「教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動 が行われている」 肯定率 80％以上をめざす 。[75％]	(1)職員会議 ICT化は確立し充実している。 ア・(教員向け学校教育自己診断)「職員会議をはじめ各種会議が、教職員間の意思疎通や意見交換の場として有効に機能している。」 肯定率 60％ 【△】 →全教員同じ職員室なので、日々、意思疎通・意見交換しており、会議は連絡のみで、結果的に効率的な運営ができています。 (2) ア・ストレスチェック集団分析結果において、全国平均を 100 として、 A 仕事の量的負担・コントロール度 93 【△】 B 上司×同僚のサポート 111 【△】 C 総合健康リスク 103 【△】 →ストレスチェック実施の9月は、教員数不足があつた為の結果と考えるが、今後とも上司のサポートの改善に努めたい。 イ・各種ハラスメントの大阪府条例について研修実施。 (教員向け学校教育自己診断)「教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動 が行われている」 肯定率 70％ 【△】 →教職員間の信頼関係と相互理解の充実を第一としたい。